

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月18日

管内幼稚園
園長 阿野 圭太郎

1.本園の教育目標

・自分で考え、行動する子ども ・おもいやりをもった子ども ・あいさつができる子ども ・仲良く遊べる子ども

2.本年度重点的に取り組む目標

「あそびからまなびへ まなびからあそびへ」
～子どもたち一人一人の特性(その子らしさ)や発達段階および知的探求心を大切に、さらに伸ばしていく～

3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	すべての職員がこども主体の保育について考え、話し合い、共通理解を深める	C	当園の教育理念や教育・保育方針の下での子ども主体の保育の理解や各クラス、他学年・クラス間での話し合いの場や共通理解を深めようとする試みに関して職員間で意識・取り組みの差がある。
2	保育者主体から子ども主体の保育への転換とその実践を行う	C	子どもが主体的に考え選択・行動できるような短期・長期的な保育計画の作成およびそれに基づく保育者の環境づくりの取り組みが不十分である。また、保育に関する研修への参加など自己研鑽についての職員の意識の醸成が必要である。
3	子ども主体の保育とその実践内容についてペアレンツウィーク、ドキュメンテーション、HPやSNS等を通して保護者に情報を発信する	B	今年度途中から、子ども主体の保育とその環境(づくり)について保育者の意識が変わり始め、各クラスでルクミーを用いたドキュメンテーションの内容に変化が見られるようになり、その発信も積極的に行われた。ただ、保護者は依然として不十分と感じていたり、ルクミー以外の場での情報発信を求めている。

評価基準【A…十分達成されている(おおむね80%) B…ほぼ達成されている(60～80%) C…取り組まれているが成果が十分でない(40～60%) D…取り組みが不十分である(40&以下)】

4.総合的な評価結果

評価	理由
C	3つの評価項目の内、評価項目3はほぼ達成されているが(70%程度)、1と2に関しては取り組みおよび成果とも十分ではないため。

評価基準【A…十分達成されている(おおむね80%) B…ほぼ達成されている(60～80%) C…取り組まれているが成果が十分でない(40～60%) D…取り組みが不十分である(40&以下)】

5.今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	子ども主体の保育のために必要な保育者の環境づくり	保育者は保育のプロフェッショナルであるという自覚と責任の醸成に努め、園内外の様々な研修や日頃の保育に関するディスカッションを通して、保育環境のコーディネーターである保育者が行う保育の質を向上していく。
2	行事の在り方	令和6年度より、運動会改め「スポーツフェスティバル」、音楽会及びお遊戯会改め「すげうち発表会」の名称変更に伴い、リトミック・運動あそび・音楽あそび・劇あそび・ダンス等の日頃の活動の発表の場として、より柔軟に幼稚園教育指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で定められた5領域に則した発表を行っていく。各行事について、0歳から5歳まで一貫した教育・保育カリキュラムの下で、子どもたちの発達段階に応じて見通しを持ち計画的に保育を行っていく。
3	食育の推進	令和6年度より、新園舎にて憫LEOCによる給食提供が始まるが、ただ給食を食べるだけではなく、園内の畑やプランター等で野菜や果物を栽培・収穫する体験や園外保育やプロジェクト活動等で畜産・酪農業について体験する等フィールド学習も取り入れたり、憫LEOCと共に作成した食育カリキュラムをもとに、様々な食材に5感で触れたり調理体験をしたりするなど食育の幅を広げていく。
4	保護者(バス利用児含む)同士の交流	令和6年12月末の園庭外構工事完了次第、園庭開放の実施を現在検討中である。(従来の、時間や後片付け等の簡単なルールがあるのみの文字通りの園庭の「開放」ではなく、スクールバス利用児も含む、1～3号給付認定の方の多くが安心して利用でき、また、保護者の方以外にも当園と交流のある個人・団体あるいは、保護者有志の方が園庭開放でさらなる交流の輪が広がるような形式)また、将来的な父母の会(仮称、PTAではない園運営のためのボランティア活動を主とする)の発足についても現在検討中である。令和6年度に学校関係者評価委員会等で協議を重ね、発足に向けて準備を進めていく。また、園の行事や日頃の保育の中で保護者がどのような形で参加可能か園内で検討していく。
5	保護者が幼児の発達に気づく機会づくり	保育者が正しい知識た経験の下、保護者に乳幼児期の心身の発達の機会に気づけるような方策を検討し、実施していく。
6	教育目標・方針の不徹底	私立幼稚園としての教育理念や教育・保育方針を大切にしつつ、令和6年度からの認定こども園移行に伴い、より質の高い教育・保育を行うため、保育者がそれらをきちんと理解し、各学年のカリキュラムに落とし込み、保育環境のコーディネートを行っていく。そして、それらの保育実践の中身や様子について各クラス担当の保育者がルクミーやクラスの行事・活動を通して丁寧に伝えていく。

6.学校関係者評価委員会の評価

R5.3.4実施 / 出席者:8名 アンケート回答者:8名

1. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか。

平均:3.1 (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

園の評価項目に対して(子ども主体の保育)、ずっと疑問を感じていたが、園長先生の見解とそれについていけなかった先生がいること、保護者が「置き去り感」を感じていたことが今日の委員会で共有された。評価項目のうち、保護者んい勘違いして伝わっていることも共通認識できたので、評価項目はこれでよいことが理解できた。ただし評価委員は理解できたがその他の保護者には伝わっていないので…。先生方もまだまだ試行錯誤しながら日々忙しい中で全力で子ども主体の保育をしようとしてくださっていると思う。現に年度途中から良くなったように感じていた。まだ十分ではないと感じているという結果に、これからの保育に期待したい。

子ども主体保育について先生方で捉え方が違い、取組みに差が出たとの事、もう少し簡潔で分かりやすい目標からでも良かったかなと思いました。

子ども主体の保育の実践に関して、中途半端な保育にならないよう担任の先生だけに任せるのではなく、園全体で取り組む、フォローをして欲しいと思いました。今年度は園舎工事ということもあったとは思いますが、子どもが自分から考え遊ぶ学ぶという環境づくりが不十分な気がしました。季節・発達段階、また他学年との交流など幅広い観点から取り組んで欲しいと思います。

評価1・2に対して厳しめに評価されているのだと思いますし、園長先生も先生方も頑張ってくださいていることは分かりますが、結果がCだというのならば目標設定に少し無理があるのではと感じました。職員による差だと言われたら保護者はそこまで踏み込めませんしなんともしようがありません。

端的でわかりやすい目標・評価だが、計画については?である。短期ではなく、中長期で取り組む項目であり転換期において大切な内容だと思う。

2. 評価結果の内容は適切であったか。

平均:3.2 (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

Cで適切と思う。先生間でも意識や取り組みの差があるとの事なので。園全体が「チームすげうち」ですすんでいけるようになるには、もう少し時間がかかると思うが、子ども達の1年1年は今この瞬間しかないものなので、園の都合だけにはならないよう考えて頂ければと思う。そのための意見出しで保護者のことも頼ってください。

子ども主体の保育へ移行されてから、まだ間もないこともあり、評価結果は適切と考えられる。全職員が「子ども主体」の保育のイメージを同じくしていただき、保育レベルに差が出ないようにしてほしい。特に現年々少～年中は移行期間ということもありしっかり先生同士でフォローしあっていただきたい。

課題も多そうですが、全体的によく取り組まれていると思います。

シビアな評価がとても嬉しいです。来年度の期待が高まりました。一方で保育者の皆さまに楽しんで保育をしていただくことも結果的に子ども達にも園にもプラスになると思いますので、あまり力みすぎずに励んでいただけたらなと思います。

評価項目3では今まで知れなかった日々の事や子ども達の学ぶ疑問が写真などで見れたり私はとても良いと思いました。ドキュメンテーションは取り組みは良いと思いますが、2月くらいにかなり前のものが送られてきたり、もう少しラグを少なくできないのか?と…。先生もやるが多すぎて負担が多く無理ならばゆるく簡単なものにするか…。日々の様子も届くので辞めてもいいのかなと思いました。

転換期ならではの評価結果かなと思う。「子ども主体の保育」という言葉が保護者にも保育者にもきちんと理解・浸透していないのはもったいないことでもあるし、改善が急務だと思う。発信の工夫(一方通行ではない発信の場を持つ等)もあるとより良くなるのでは。

2. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか。

平均:3.1 (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

来年度から色々変わっていくことに期待しています。新しい事やこれまでの改革、先生達の努力には日々感謝しております。保護者同士の交流は前年度にも課題となっていました。新しく入られた方が少しでも交流して保護者の不安な気持ちが減ると良いと思います。

運動会に関しては発達段階の近い年中・年長と年少・年々少に分けた方がいいのでは?と思いました。特に年長、年中はお兄さんお姉さんの凄いとこ、下学年を応援する手助けなど、お互いの良い刺激になると思います。

もっと子ども達と向き合ってもらうために先生方の負担を減らせるところは減らし、保護者の協力を得て保育の質を高めていってほしいと思います。

①②に関して…行事が今までと様変わりして、このままこの感じて行うのが園の方針なのだろうかと不安を抱いていました。しかし今回の会で園長先生の熱い想いが伝わってきて、改革の途中なんだと理解することができました。今年度の行事は園長先生の思っていたものとは少し違うということが保護者に伝わればいいなあと思いました。

「子ども主体の保育」という方針が独り歩きしてしまい、モヤモヤして園生活を送っている保護者も多いと思う。子ども主体がどういうものかというより先生方が目指すビジョンをしっかりと伝えていただきたい。今回初めて納得しながら話を聞いた。また行事のあり方や保護者同士の交流についても新たな試みをしていって欲しいと思う。

保護者が幼稚園に求めてきたこと、幼稚園がこれから目指していくこと、何より子ども達の為になること、双方向の目標が一致するのは困難であると思うが、少しずつの工夫の積み重ねがより素敵な管内幼稚園を新しく創り上げていくのだと思う。まずは両者のために保護者会しましょう、父母の会はとても良いと思う。

②行事の在り方については、もう少し園と保護者の意見交換の後、改善の(具体的な取り組み方法の見直し)余地があるのではないかと考えた。本日の評価委員会でこの件について全員で意見出しできたので、定期的に保護者と園とで考える理想の行事の在り方のギャップを無くしていけたらと思う。「2」以外の課題の設定はとても良いと思う。ぜひ実現してほしい。